

飯川雄大 大事なことは何かを見つけたとき



大事なことは何かを見つけたとき

飯川雄大



Takehiro
Iikawa Gathering
Matters
and
Mediations

February 28 – May 6, 2026
2026年2月28日(土) – 5月6日(水・振)

水戸芸術館現代美術ギャラリー
Contemporary Art Gallery,
Art Tower Mito



水戸芸術館
ART TOWER MITO

【展覧会概要】

展覧会名：飯川雄大 大事なことは何かを見つけたとき

会 期：2026年2月28日(土)～5月6日(水・振)

開場時間：10:00～18:00 (入場は17:30まで)

会 場：水戸芸術館現代美術ギャラリー

休 館 日：月曜日 ※5月4日(月・祝)は開館

入 場 料：一般900円、団体(20名以上)700円

高校生以下／70歳以上、障害者手帳などをお持ちの方と付き添いの方1名は無料

※学生証、年齢のわかる身分証明書が必要です

◎1年間有効フリーパス「年間パス」2,000円

◎学生とシニアのための特別割引デー「ファーストフライデー」：毎月第一金曜日は
学生と65～69歳の方が100円で展覧会をご鑑賞いただけます。※要証明書

主 催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

助 成：公益財団法人野村財団

協 賛：並木クリニック、マックスプル工業株式会社、シンロイヒ株式会社、
株式会社オール

協 力：Art Center NEW、gallery α M、KOTARO NUKAGA、Atelier Tuareg、
Gallery Nomart、tmsd 萬田隆構造設計事務所、
サントリーホールディングス株式会社

企 画：畑井恵(水戸芸術館現代美術センター学芸員)

飯川雄大は時間の相対性や知覚のゆらぎに着目し、何気ない風景や身近な物事を注意深く観察することで、人々の認識の不確かさや、社会で見過ごされがちな存在に目を向けさせる作品を制作してきました。記録という行為とそこからこぼれおちるものの考察から生まれた〈デコレータークラブ〉シリーズでは、巨大なピンクの猫を街中に突如出現させたり、鑑賞者のかかわりによって移動・変化するオブジェを屋内外に設置したりと、立体、絵画、写真、映像等を自由に組み合わせ、空間の特性を生かした作品を展開しています。本展では、飯川のこれまでの実践を包括的に紹介するとともに、情報の曖昧さや感覚の不完全さを新たな可能性と捉え、鑑賞者を巻き込む新作インスタレーションを制作します。それらへの応答として現れる振る舞いは、人びとが時を忘れ、夢中になって遊ぶ姿を思い起こさせます。そしてその「遊び」の先、場所や時間を越えたところで、いつか誰かが、見知った日常とは異なる光景を見つけるかもしれません。思いもよらぬ出来事に出会ったときの衝撃、生々しいリアリティを持った想いを、私たちはそのことを知らない他者にどのように伝えることができるのか、その（不）可能性について、共に考える機会となるでしょう。

【作家プロフィール】

飯川雄大（いいかわ たけひろ）

1981年兵庫県生まれ。現在、神戸を拠点に活動。2007年より〈デコレータークラブ〉シリーズを展開。公共空間や展示の仕組みに目を向けながら、観客の身体感覚や想像力、場の偶発性によって変容する作品を手がけている。代表作に、観客の能動的な関与によって空間や物の在り方を変化させ、新たな関係性を立ち上げる《0人もしくは1人以上の観客に向けて》、視覚の断片を手がかりに空間を読み解いていく《配置・調整・周遊》がある。主な個展に「未来のための定規と縄」（霧島アートの森、鹿児島、2023）、「同時に起きる、もしくは遅れて気づく」（彫刻の森美術館、神奈川、2022）。主なグループ展に「感覚の領域 今、『経験する』ということ」（国立国際美術館、大阪、2022）、「ヨコハマトリエンナーレ 2020」（横浜美術館・PLOT48）がある。2026年4月には、本展と同時期に KOTARO NUKAGA（天王洲）と gallery α M でも個展を開催予定。

<https://www.takehiroikawa.com>

https://www.instagram.com/takehiro_bau



【展覧会の3つのポイント】

1. 国内外で注目を集める飯川雄大、過去最大規模の個展

飯川は、時間の相対性や知覚のゆらぎ、日常に潜む違和感や曖昧さに着目し、多様なメディアや手法を用いて作品を制作してきました。鑑賞者の介入によって作品が成立する仕掛けや、展示空間の内外を接続するアプローチなど、新たな風景や予期せぬ出来事を引き起こす表現は高く評価されています。飯川は一貫して、私たちが他者と共有できない体験や、何かが湧き起こる衝動を伝えようとするときの思考や戸惑いに注目し、鑑賞者が自身のタイミングで「何かに気づく瞬間」を重要視しています。近年では「Inside Space」（Galerie Monument SONGWAT、バンコク、2025）、「Make Space, Use Space: 躲猫猫與城市移動」（Artemin Gallery、台北、2025）、「未来のための定規と縄」（霧島アートの森、鹿児島、2023）、「同時に起きる、もしくは遅れて気づく」（彫刻の森美術館、神奈川、2022）など国内外で個展を重ね、いま最も注目されるアーティストの一人です。本展は、これまでの飯川の多岐にわたる実践を、水戸芸術館のために制作した新作に加え、ドローイングや写真・映像作品とともに包括的に紹介する、過去最大規模の個展です。



飯川雄大《デコレータークラブー配置・調整・周遊》2020年、「ヨコハマトリエンナーレ 2020」(PLOT48)での展示風景、Photo: Takehiro Iikawa, courtesy of the artist

2. 実験の積層がつくる、有機的な「風景」

情報の曖昧さや感覚の不完全さを新たな可能性として捉える飯川雄大。本展では、その視点を生かしたインスタレーションを展開します。今回制作される新作は、当館の建築や空間的特徴を生かしたものであり、過去作品と響き合い、ひとつの有機的な展示空間を構成します。この試みは様々な場所で実験的に鑑賞者を巻き込んできた飯川の活動の集大成といえるでしょう。会場各所に設置された仕掛けは鑑賞者の遊び心を刺激し、行動を促します。その結果引き起こされる変化は、展示室内にとどまらず、異なる場所や時間へと広がり、思いがけない「風景」を生み出します。



飯川雄大《デコレータークラブーピンクの猫の小林さん》2022年、彫刻の森美術館（神奈川県）での展示風景、Photo: Takafumi Sakana, courtesy of the artist

3. 複数の会場を「鑑賞者」がつなぐ《デコレータークラブ—新しい観客》

美術館の枠組みを超えた試みとして、《デコレータークラブ—新しい観客》を実施します。これは、展示室に置かれた作品《ベリーヘビーバッグ》を鑑賞者自身が運び出し、同時期に個展を開催している他会場（Art Center NEW、KOTARO NUKAGA（天王洲）、gallery α M）へと移動させるプロジェクトです。《ベリーヘビーバッグ》を運ぶ鑑賞者は、展示空間の内と外のつながり、「見る／見られる」の関係性、日常と非日常を隔てる境界といった問いを抱きながら、遠く離れた場所への道のりを想像し目的地へと向かいます。街の風景に擬態するように紛れ込んだその姿を目撃した人々も、思いがけず作品に巻き込まれていきます。そして「運ぶ人」と「見る人」の双方を「新しい観客」へと変え、それぞれの立ち位置からの視点を交差させます。複数の会場を作品がつなぐこの試みは、多層的な視点が重なり合う新たな鑑賞の場をもたらします。



飯川雄大《デコレータークラブ—新しい観客》2022年、「感覚の領域 今、「経験する」ということ」展（国立国際美術館、大阪）と個展「デコレータークラブ：メイクスペース、ユーズスペース」（兵庫県立美術館）での連携実施、Photo: Takehiro Iikawa, courtesy of the artist

【同時期に開催される飯川雄大の展覧会】 ※本展出品作《デコレータークラブ—新しい観客》と連携する会場です。

・「横浜、猫、卓球台」

2026年2月28日（土）～ 5月23日（土） | Art Center NEW（横浜）

・「デコレータークラブ：重いバッグの中身」

2026年4月4日（土）～ 5月23日（土） | KOTARO NUKAGA（天王洲）

・「立ち止まり振り返る、そして前を向く | vol.5」

2026年4月11日（土）～ 6月13日（土） | gallery α M（東京）

※開館時間および休館日は会場によって異なります。ご来場の際は、各会場の公式ウェブサイト等で最新の情報をご確認ください。

【関連プログラム】

- ・記載がない限り参加費無料(要観覧券)・申込不要、現代美術ギャラリー内が会場です。
- ※無料でご入場いただける方についてはチケット情報をご確認ください。
- ・【要申込】の申込方法等詳細は、決定次第当館ウェブサイトでお知らせします。

■ オープニング・トーク

日時: 2月28日(土) 14:00~15:30(開場13:30)
出演: 飯川雄大(出品作家)
会場: 現代美術ギャラリー ワークショップ室
定員: 80名(先着順)

■ 【要申込】アーティストによるギャラリーツアー

日時: 3月8日(日)、29日(日)、4月12日(日) 各日14:00~15:00
出演: 飯川雄大(出品作家)
定員: 15名(先着順)
申込: 2月10日(火) 10:00開始

■ 【要申込】アーティスト・ワークショップ「0人もしくは1人以上の観客にむけて」

飯川さんの作品づくりを体験するワークショップ。参加者がつくったものを水戸芸術館内に展示し、みんなでヒントをたどりながらそれぞれの作品を探して鑑賞します。気がつきそうで気がつかない、けど気がついたら目が離せないような仕掛けをみんなで考えます。(制作物は本展会期中、当館にて成果展示として発表します)
日時: 3月14日(土)、15日(日) 10:00~16:00 ※全2日間で1つのプログラムです。
講師: 飯川雄大(出品作家)
会場: 館内
対象: 小学生以上 ※7歳以下は保護者同伴
定員: 15名(先着順)※2日間とも参加可能な方
参加費: 一般2,000円、高校生以下1,000円(観覧券入場料込み) 申込: 2月10日(火) 10:00開始

■ 「0人もしくは1人以上の観客にむけて」水戸芸術館内に仕掛けられた作品を見る！

アーティスト・ワークショップ参加者が館内に仕掛けた作品を、ヒントを頼りに見つけて鑑賞してみましょう。
※作品探しのヒントマップは観覧券受付にて配布します。
会期: 3月17日(火) ~3月29日(日)
会場: 館内

■ アーティスト・トーク

日時: 4月29日(水・祝) 14:00~15:30(開場13:30)
出演: 飯川雄大(出品作家)、宮元三恵(東京工科大学教授)
会場: 現代美術ギャラリー ワークショップ室
定員: 80名(先着順)

宮元 三恵 / MIYAMOTO Mie

AAスクール・ディプロマコース修了後、2006年に東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程を修了(美術博士)。ロンドン大学バートレット校研究員、横浜トリエンナーレ2001事務局、東京藝術大学美術学部将来計画準備室などを経て、現在は東京工科大学デザイン学部教授。子どもの身体感覚や空間体験をテーマに、研究・活動・制作を行っている。2023年から2024年には、視覚に関する多様な立場の人々とともに、国立国際美術館における建築鑑賞をサポートする「たてもの鑑賞サポートツール」の開発に取り組み、飯川氏と協働した。



撮影: 大岩久美

■ 【要申込】赤ちゃんと一緒に美術館散歩

小さなお子さんと一緒に、安心して、気兼ねなく美術館を楽しんでいただくためのツアーです。

日時：3月18日(水)、22日(日) 各日10:30～12:00

対象：未就学児とその保護者

定員：各回5組(先着順)

参加費：未就学児無料、保護者1,500円(展覧会入場料込み/2人目からは入場料のみ)、
入場料減免対象者1,000円

申込：2月10日(火) 10:00開始 協賛：ビジョンマニュファクチャリング茨城株式会社

■ ウィークエンド・ギャラリートーク

市民ボランティア CACギャラリートーカーと、対話を通してともに展覧会を鑑賞します。

日時：3月14日(土) より毎週土曜日14:30～(約40分)

※館内催事の都合により中止となる場合があります。

【同時開催】

■ クリテリオム102 白丸たくト

「クリテリオム」は、若手作家と当館学芸員が共同企画する新作中心の展覧会シリーズです。

白丸たくト(1992年生)は、音や詩を主なメディアとし、ある土地の社会的、歴史的、感情的な側面へとアプローチする作品を発表してきました。山形、水戸、大洗へと拠点を移しながら、地形や異なる時代の出来事を自らの体感と交錯させ、その土地で編まれた言葉や詩に触れるなかで、音や言葉、アクション、記録などを組み合わせた表現の探求を続けています。詩人の言葉に曲をつけ歌うことで他者の感情や環境との共鳴を問いかけた「詩人の声を歌に訳す」(2016年～)、空間

や人との干渉をとおして展示を変容させる「或いは潮の満ち引きのように」(2024年～)など、その創作は風景と身体への関心に根ざしながら、身体性やその不在を取り込んで展開しています。

本展では、白丸が拠点を置く茨城県大洗町とその周辺に目を向け、そこに流れる人やもののあり様から構想した新作を発表します。

会期：2026年2月28日(土)～5月6日(水・振)

会場：現代美術ギャラリー第9室

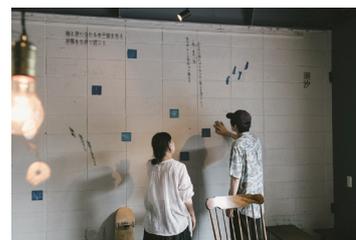
料金：展覧会入場料に含まれます。

主催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

協賛：有限会社アジアシステムサービス

企画：後藤桜子(水戸芸術館現代美術センター学芸員)

※クリテリオムは、ラテン語で「基準」を意味し、若手作家の新作を中心に紹介する企画展です。



「或いは潮の満ち引きのように」2024年 展示風景
撮影：倉科直弘

■ 高校生ウィーク2026

高校生のための展覧会無料招待企画として1993年にはじまり、現在では多様な人や価値観に出会う機会を多世代に提供する「高校生ウィーク」。期間中ワークショップ室内に出現する「カフェ」で、展覧会と連動したワークショップや部活動、読書、裁縫などさまざまなプログラムをどなたでも楽しめます。

詳細は当館ウェブサイトでお知らせします。

■ 【団体のみ要申込】ブリッジカフェ

展覧会鑑賞をはじめ、手仕事やおしゃべり、心配ごとの相談など、シニアのみなさんや認知症当事者・ご家族・そのケアにあたる方々を対象とした交流カフェ。一般の方もご参加いただけます。

日時：3月25日(水)

会場：現代美術ギャラリー ワークショップ室(高校生ウィーク2026会場)

協力：水戸市福祉部高齢福祉課

【図 版】 展覧会広報用にデータを貸し出しますので、ご要望の方は鳥居までお問合せください。

1



4



2



5



3



6



1.飯川雄大《デコレータークラブー配置・調整・周遊》2020年、「ヨコハマトリエンナーレ 2020」(PLOT48)での展示風景、
Photo: Takehiro Iikawa, courtesy of the artist

2.飯川雄大《デコレータークラブーピンクの猫の小林さん》2022年、彫刻の森美術館（神奈川県）での展示風景、
Photo: Takafumi Sakanaka, courtesy of the artist

3.飯川雄大《デコレータークラブー0人もしくは1人以上の観客に向けて》2024年、東京都渋谷公園通りギャラリーでの展示風景、
Photo: Takehiro Iikawa, courtesy of the artist

4.飯川雄大《デコレータークラブー新しい観客》2022年、「感覚の領域 今、「経験する」ということ」展（国立国際美術館、大阪）
と個展「デコレータークラブ：メイクスペース、ユーズスペース」（兵庫県立美術館）での連携実施、
Photo: Takehiro Iikawa, courtesy of the artist

7



8



9



10



11



5.飯川雄大《デコレータークラブー新しい観客》2022年、兵庫県立美術館での展示風景、Photo: Takehiro Iikawa, courtesy of the artist

6.飯川雄大《デコレータークラブープリング・タイム》2023年、霧島アートの森（鹿児島県）での展示風景、Photo: Takehiro Iikawa, courtesy of the artist

7.飯川雄大《デコレータークラブープリング・タイム》2023年、霧島アートの森（鹿児島県）での展示風景、Photo: Takafumi Sakanaka, courtesy of the artist

8.飯川雄大《デコレータークラブー配置・調整・周遊》2018年、A-Lab（兵庫県）での展示風景、Photo: Hyogo Mugyuda, courtesy of the artist

9.飯川雄大《Fade out, Fade up "Expressway"》2012年、ラムダプリント、アクリルマウント、42×56cm

10.飯川雄大《レフリーストップ #1》2024年、紙に色鉛筆、38×27cm、個人蔵、Photo: Takehiro Iikawa, courtesy of the artist

11.飯川雄大《デコレータークラブーベリーヘビーバッグ》2021年、千葉市美術館での展示風景、Photo: Takehiro Iikawa, courtesy of the artist

プレス向け内覧会のお知らせ

2026年2月27日（金） 14:00～15:30 受付開始 13:30

場所：水戸芸術館現代美術ギャラリー

出席者：飯川雄大（出品作家）

畑井恵（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

白丸たくト（クリテリオム 102 出品作家）

後藤桜子（クリテリオム 102 企画担当・水戸芸術館現代美術センター学芸員）

【お問合せ】

水戸芸術館現代美術センター

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 Tel.029-227-8120/Fax.029-227-8130 <https://www.arttowermito.or.jp/>

展覧会について：畑井恵（学芸員）

教育プログラムについて：森山純子、中川佳洋（教育プログラムコーディネーター）

広報・写真貸出について：鳥居加織（広報） e-mail:cacpr@arttowermito.or.jp

*詳細は公式X http://twitter.com/MITOGEI_Gallery でも配信いたします。

【記事掲載についてお願い】

- 1) 掲載にあたっては、正式展覧会名称と会期の表記をおこなってください。
- 2) 写真を掲載する場合は、写真に添付してあるキャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- 3) 誌面掲載する電話番号は、水戸芸術館代表番号029-227-8111でお願いいたします。
- 4) 掲載記事とVTRは、資料として保管いたしますので水戸芸術館現代美術センター鳥居までご送付ください。
- 5) 取材及び収録等の取材は、必ず事前にお問い合わせください。都合により取材に応じることのできない場合がございます。

【交通のご案内】

[JR] 東京駅（品川、上野発もあり）から常磐線特急で約72分～84分、水戸駅下車。
北口バスターミナル4～7番のりばから「泉町1丁目」下車。徒歩2分。

[高速バス] 東京駅八重洲南口バスターミナルのりばから高速バス「みと号」水戸駅行きで約100分、「泉町1丁目」下車、徒歩2分。

[お車] 常磐自動車道水戸ICから国道50号線を水戸市街地方面へ約20分。
◎市営五軒町駐車場があります。
地下駐車場（217台）7:00～23:00
立体駐車場（283台）24時間
料金：30分まで無料、1時間まで200円、以降30分ごとに100円 1日上限700円

【お知らせ】

今後のプレスリリースの発行を郵送からメルマガ配信へと移行します。配信への移行を希望される方はメールアドレス・ご所属・ご氏名を cacpr@arttowermito.or.jp までご連絡いただくか、QRコードを読み込みの上、お申込みください。

